

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800400		
法人名	社会福祉法人興愛会		
事業所名	夢の村グループホーム		
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字広原3821-1 (電話) 0984-42-4585		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年1月15日	評価確定日	平成22年2月24日

【情報提供票より】(平成21年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年12月18日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	0	要介護2	0
要介護3	3	要介護4	3
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険高原病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

集落からかなり離れた山間の中にホームがあり、近くには同法人の授産施設、デイサービスがある。車の騒音もなく授産施設の炭焼き窯に人がいるのが見える。地域の自治会に入っており、行事等に参加する機会などの情報を得たり、警察や消防団、民生委員、地域包括支援センター、福祉施設の方々の協力体制づくりに努めている。ホームは広々として車いすでも自由に動くことができる。入浴は温泉である。同法人のデイサービスに出かけ、利用している人と足湯につかりながら楽しく語ったり、時にはホームの広い庭に出て体操をしたり、草を取ったりするなど自分のペースで静かな落ち着いた生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善に向け理念を見直し職員全員で意見を出し合い、新しく実現可能な誓いの5項目として掲示してある。評価の意義の理解と活用では、運営者と職員全員で改善シートを利用して取り組んでいるが、重度化に向けた方針や食事を楽しむことのできる支援等は改善されていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者と管理者・職員で話し合いながら、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し自己評価に取り組んだ。外部評価後は改善シートを活用し、職員全員で意見を出し合い、評価を生かして改善に取り組んでいる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回家族代表、利用者、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席で、ホームの現状報告や、自己評価、外部評価の説明を行い、その他意見交換を行っている。また、会議の内容は家族にも送付している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に家族が交代で出席して意見等を述べている。家族からの意見等は、職員全員が共有出来るように申し送りノートを利用して運営に反映させている。また、職員は家族が意見、苦情等を話しやすい雰囲気作りに配慮している。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に入り文化祭に作品を出品したり、地域の消防団への協力依頼が実現し、避難訓練等の指導を受けたり、同法人の福祉施設との協力体制も出来ている。また、職員は消防署に救急救命等の講習を受けに行っている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	改善に向け理念を見直し、職員全員で意見を出し合って新しく実現可能なホームの誓いとして事業所独自の地域を意識した理念をつくり掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するために、具体的なケアについて職員全員で話し合い、新しく実現可能な誓いの5項目として掲示し、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内のデイサービス利用の知人や友人と交流したり、福祉施設の行事に出かけている。また、町の文化祭に押し花の作品を出品して地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者・職員で話し合いながら、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し自己評価に取り組んだ。外部評価後は改善シートを活用し、職員全員で意見を出し合い評価を生かして改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回家族代表、利用者、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席で、ホームの現状報告や、自己評価、外部評価の説明を行い、その他意見交換を行っている。また、会議内容は全職員に回覧するとともに家族にも送付している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当窓口へは、介護保険の更新等で行き来している。なお、利用者等の相談がある時は、地域包括支援センターに行き、相談やアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、2か月に1回行事や職員の異動等を載せたホーム便りと毎月の利用料、預かり金収支と残高を報告する際に、一人ひとりの暮らしぶり等を自筆で書き送っている。また、家族来訪時に話をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が交代で出席して意見等を述べている。家族からの意見等は、職員全員が共有出来るように申し送りノートを利用して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動で交代する場合や新規採用時には、特に紹介しないで利用者に自然になじみながら、打ち解けてくるのを待つなど、安心して過せるように職員の勤務調整を行うなどの配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は希望する研修に参加したり、月に1回は法人内で外部講師による合同研修や研修受講者による復命研修と勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月ごとに県西地区グループホーム連絡協議会の研修会に出席したり、地域の同業者と情報交換等の交流することで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に管理者が本人や家族に会いに行き、顔なじみの関係を作り、その夜も一緒に過ごし状態を観察したり、利用者に安心感を与え徐々にホームになじめるように家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が調理する時に、利用者に食材の切りかたや郷土料理のねりくりを教えてもらったり、昔のならわしなどの話を聞くなど、介護するだけでなく一緒に楽しく過ごせるよう支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、その人らしく暮らしてもらえるように要望や意向を聞き、担当職員が一人ひとりの状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員、本人家族等と話し合い、その人らしく暮らし続けるために必要な支援が盛り込まれた具体的な一人ひとりの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別介護計画に沿った記録から、介護計画実施状況と評価表が作成されており、毎月の評価と期間に応じて見直しをしている。また、身体状況変化時はそのつど見直し、計画を新たに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じた受診の支援や外泊支援を行っている。また、同法人のデイサービスの温泉の足湯やボランティア訪問時等、行事がある時には出かけるなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診は家族同伴を基本としている。必要に応じて家族と連絡しながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族、本人やかかりつけ医と話し合いながら全員で方針を検討しているが、重度化や終末期に対するホームとしての対応方針はできていない。	○	できる限りホームで過せるように支援しているが、終末期ケアを希望している利用者に対するホームとしての対応方針の共有を早急に図っていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには十分に注意し、ホーム便りには家族の承諾を得て写真を載せている。職員は食事の時なども、利用者にやさしく声かけしたり、特に排泄時は、ドアを閉めて見守るなどの支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせながら、ゆっくりとした寄り添う支援をしている。また、外で過ごすのが好きな人には職員が話しながら見守りしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と調理用の食材を切ったり、お盆ふきなどの出来ることをしているが、職員は食事の介助をしたり、見守りをしていて利用者と一緒に食事をするとはしていない。	○	家庭的な雰囲気の中で利用者と職員が同じ食卓で同じ物を味わい、楽しく語らいながら共に喜びを分かち合う支援も考慮してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3日の入浴となっているが、夕方や毎日入浴を希望する時は対応している。利用者一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが洗濯物干しや、洗濯物たたみ、草取りなどの役割を持ち、頼めることはお願いし、職員は感謝の気持ちを伝え楽しみながら一緒に行っている。また、ボランティアと押し花の作品づくりなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、デイサービスの行事に参加したり、戸外での体操や足踏み、日光浴で外に出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の様子を把握し、日中は鍵をかけていない。隣接するデイサービスに自由に行き来している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。地域の消防団への協力依頼が実現し、避難訓練等の指導を受けたり、近くの同法人の授産施設との協力体制も出来ている。また、職員は消防署に救急救命等の講習を受けに行っている。	○	今後は、夜間を想定した、避難訓練を実施されることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや病状に応じ、主治医の指示の下、食事の提供をしている。季節に応じた食材を2、3日ごとに利用者と一緒に買い物に行き、栄養バランスを考えた献立となっている。また、一人ひとりの摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールは高い天窓からの採光で明るく広々として、利用者が車いすでも自由に移動でき、それぞれの場所で過している。壁には彼岸花を背景にした全員の写真等や地区の文化祭に出品した押し花の作品がはってあり、利用者の心を和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテレビ等、本人が落ち着いて過せるよう置かれている。写真などはある居室もあるが、何もないような居室もあり、その家族には相談して協力をお願いしている。		

※  は、重点項目。